



Vol.38 国際金融史

マネーの来し方行く末 — セントラルバンクと フリーバンク —

青地孝之

関西学院大学 商学部教授



機内免税品のショッピングは旅の楽しみのひとつである。カタログからお目当ての品を選び、さて、支払い。ロンドン・ヒースロー発成田直行便であれば、使い残したポンド札か円札、あるいはクレジットカードを使うことになる。もしそのカードがアメリカ赴任中に作ったものであれば、アメリカの銀行口座からドルでの支払いとなる。選べる通貨は3種類。では、どれで支払うか。各通貨の換算レートをチェックして、カード決済時のレートを予測して…、そんなことをしては旅の楽しみも苦痛となる。たいていは、財布の中身や成田で両替する手間などを勘案し、「えいや」と適当に支払うことになる。

ところがこの通貨の選択という行動は、普段はほとんど経験することがない。国を出た機中とは異なり、日本国内では日本銀行券だけが通貨であって、民間銀行が通貨を発行することは許されない。外国通貨も使えない。その分、日本銀行は金融政策の責任を担う。それはイギリスでもアメリカでも同じであって、中央銀行を頂点に据えたセントラルバンクによる規制的な金融システムは、近代国家の常識である。EUは、さらにそれを統一した。

しかし、市場競争が資本主義の原理ならば、通貨も競争すればよい。中央銀行も民間銀行も自由に発券して互いに品質向上に努めれば、もっと安定したマネーが流通する。それがフリー

バンクの考え方である。実際、ネット上のショッピングでは、多様な国から多様なサイトへアクセスがなされ、使われる通貨もまた多様である。そのうち国など無関係にネット上で誰かが独自通貨を発行しても、信用さえ得れば流通を始めるかも知れない。

そんなことは起こり得ないと思うだろうが、19世紀のスイツトランドでは、3つの銀行が互いに競い合いながら安定した通貨を発行し、イングランドを上回る経済成長を実現した。ところが同じ19世紀のアメリカでは、自由をよいことに多数の銀行が通貨を濫発し、金融システムは疲弊した。自由なるもの、かくも手綱さばきが難しい。

日本の金融システムは、護送船団方式と呼ばれた規制型から市場重視の自由型へと大きく舵を切った。4大メガバンクや郵政民営化はその延長線上にある。しかし、スイツトランドやアメリカの経験から明らかのように、市場競争や民営化は、有効ではあるけれども万能ではない。競争は勝者と敗者を生む。今の日本には、そのいずれをも素直に社会に受け入れるだけの、覚悟と準備はあるのだろうか。

てらち、たし、金融史、国際金融論専攻、博士(商学)。
関西学院大学大学院商学研究科博士課程後期課程単位
取得退学、同大学商学部専任講師、助教を経て98年から
現職、イギリス・レディング大学客員フェロー(93-95年)、郵便
貯金事業に関する研究で、05年に日本郵政公社総裁表彰を
受賞、主著に、『近代金融システム論』(有斐閣)ほか。



西宮上ヶ原キャンパス
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号
神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部/高等部/中学部

神戸三田キャンパス(KSC)
〒669-1337 兵庫県三田市学園2丁目1番地
総合政策学部 理工学部

「Sky Seminar」のバックナンバーは、<http://www.kwansei.ac.jp/information/sky.html> で御覧になれます。お問い合わせ・・・TEL:0798-54-6017(広報室)

オープン・キャンパス開催

キャンパスライフを体験できると受験生に好評の「オープン・キャンパス」を、7月30日(土)に西宮上ヶ原キャンパスで、8月6日(土)に神戸三田キャンパスで開催。刷新の進む入試制度の説明や、学部・学科別のガイダンスやミニ講義、留学説明会や英語の模擬授業、キャンパスツアーなどを実施します。